

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成19年11月1日(2007.11.1)

【公開番号】特開2007-184980(P2007-184980A)

【公開日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【年通号数】公開・登録公報2007-027

【出願番号】特願2007-76509(P2007-76509)

【国際特許分類】

H 04 Q 7/38 (2006.01)

H 04 M 11/00 (2006.01)

【F I】

H 04 B 7/26 109 G

H 04 M 11/00 303

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月7日(2007.9.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1の通信方式の通信中に、該第1の通信方式から第2の通信方式に切り替えて、該第2の通信方式における着信を監視し、

当該着信が検出されたら、前記第1の通信方式の通信が切断されない第1所定時間だけ前記第1の通信方式から前記第2の通信方式に切り替え、

前記第1所定時間の経過後に、前記第2の通信方式から前記第1の通信方式に切り替え前記第1の通信方式の通信を行うよう制御することを特徴とする無線通信端末装置の制御方法。

【請求項2】

前記着信の検出後に前記第2の通信方式の通信を行うとともに、前記第1所定時間の経過後に前記第2の通信方式の通信を中断し、

前記第2の通信方式の通信が切断されない第2所定時間だけ前記第2の通信方式から前記第1の通信方式に切り替え、

前記第1の通信方式で通信を行い、前記第2所定時間の経過後に、前記第1の通信方式から前記第2の通信方式に切り替えて前記第2の通信方式の通信を行うことを特徴とする請求項1に記載の無線通信端末装置の制御方法。

【請求項3】

前記第1所定時間は、前記第1の通信方式において用いられる通信用プログラムによって通信の切断が判定されない時間であり、

前記第2所定時間は、前記第2の通信方式において用いられる通信用プログラムによって通信の切断が判定されない時間であることを特徴とする請求項2に記載の無線通信端末装置の制御方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】無線通信端末装置の制御方法

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

第1の発明は、第1の通信方式の通信中に、該第1の通信方式から第2の通信方式に切り替えて、該第2の通信方式における着信を監視し、当該着信が検出されたら、前記第1の通信方式の通信が切断されない第1所定時間だけ前記第1の通信方式から前記第2の通信方式に切り替え、前記第1所定時間の経過後に、前記第2の通信方式から前記第1の通信方式に切り替えて前記第1の通信方式の通信を行うよう制御することを特徴とする無線通信端末装置の制御方法。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

第2の発明は、第1の発明において、前記着信の検出後に前記第2の通信方式の通信を行うとともに、前記第1所定時間の経過後に前記第2の通信方式の通信を中断し、前記第2の通信方式の通信が切断されない第2所定時間だけ前記第2の通信方式から前記第1の通信方式に切り替え、前記第1の通信方式で通信を行い、前記第2所定時間の経過後に、前記第1の通信方式から前記第2の通信方式に切り替えて前記第2の通信方式の通信を行うことを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

第3の発明は、第2の発明において、前記第1所定時間は、前記第1の通信方式において用いられる通信用プログラムによって通信の切断が判定されない時間であり、前記第2所定時間は、前記第2の通信方式において用いられる通信用プログラムによって通信の切断が判定されない時間である。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】